OOTOSI JINJA SITE

# 大歳神社遺跡

―― 平成６年度緊急地方道(A)３・４・２茅野市大年線・防火貯水槽設置工事
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 ――

１９９５年　３月

茅野市教育委員会

# 序　文

大歳神社遺跡の発掘調査は、県単街路事業大年線建設工事および防火貯水槽設置工事に伴い茅野市教育委員会が実施したものであります。

大年神社は今年度茅野市の文化財に指定された神社です。大年神社は嘉禎三年六月の年号をもつ祝詞段、建武二年の大祝職位事書に「大歳」の名がみられるように古くから諏訪神社の信仰の中で一定の役割を果していた神社であると思われます。今回の発掘調査は、現在の大年神社と文書記録にみえる大歳神社の位置や起源についての関係を調べることも調査課題のひとつとして実施しました。

調査結果からは神社の起源や位置に関しての情報はあまり得られませんでしたが、中世から近世にかけてのカワラケが出土し、神社にかかわる行為が行われていた可能性も否定されたわけではありません。周辺の調査も含め大年神社の起源に関しては調査が必要であると思われます。

今回の調査においては近世、中世の遺物の他に、縄文時代早期末葉、中期、後期および弥生時代終末から古墳時代初頭、さらには古墳時代中期中世、近世の遺物が発見され、長い歴史の中で断続的に利用されてきた場所であることが明らかになりました。遺物だけでなく縄文時代早期の土坑、弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての遺構、時期は不明確ながら竪穴住居址１基が検出され、様々な時期の居住および利用の痕跡も発見されました。特に弥生時代終末から古墳時代初頭の遺物は東海地方からの技術伝播がうかがえる貴重な資料であり、これまでに茅野市では発見されていなかったものです。今後とも地道な調査を継続し、原始古代の茅野市の実体を明らかにしていきたいと思います。

発掘調査にあたり、長野県諏訪建設事務所、長野県教育委員会など各関係機関の皆様の深いご理解とご助力により、発掘調査を無事終了することができましたことに、心から御礼申上げます。

平成７年３月

茅野市教育委員会
教育長　両角　昭二

# 例　　言

1．本書は、長野県茅野市ちのに所在する大歳神社遺跡の、緊急地方道(A)３・４・２大年線建設、防火貯水槽設置工事に伴う緊急発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、緊急地方道(A)３・４・２大年線については諏訪建設事務所からの委託を受け、防火貯水槽工事に伴う調査については市の単独事業として、それぞれ茅野市教育委員会が実施したものである。

3．発掘現場における記録、遺物、図面の整理、図版等の作成は功刀司、赤堀彰子が行ない、遺物実測作業およびトレース作業は守矢昌文、功刀が行った。報告は、第Ⅰ章第３節を柳川英司が、他を功刀が執筆した。

4．出土品、記録は茅野市文化財調査室が保管している。

5．報告書作成にあたり、諏訪考古学会会長宮坂光昭氏他、諏訪考古学研究会会員諸氏から御教示を賜わった。

# 目　　次

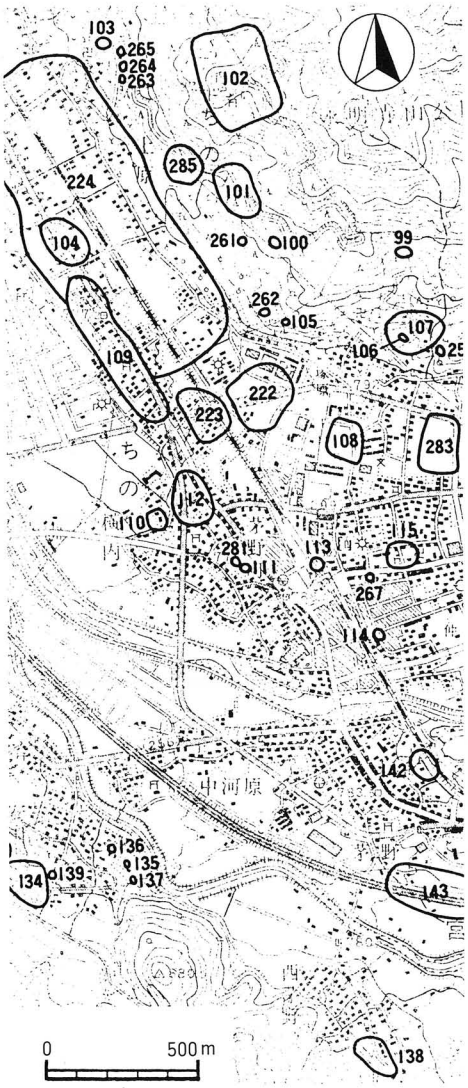
序文
例言・目次
第Ⅰ章　遺跡の位置と環境……1
　第１節　遺跡の立地と地理的環境……1
　第２節　周辺の遺跡……2
　第３節　史料からみた大年神社……2
第Ⅱ章　発掘調査の概要……4
　第１節　発掘調査に至るまでの経過……4
　第２節　発掘調査の経過と方法……5
第Ⅲ章　発掘された遺構と遺物……6
　第１節　遺跡の層序……6
　第２節　縄文時代の遺構と遺物……8
　第３節　弥生時代終末から古墳時代の遺構と遺物……10
　第４節　中世の出土遺物……12
　第５節　近世以降の遺構と遺物……14
　第６節　時期不明の遺構……14
第Ⅳ章　結　　語……14
引用参考文献……15

# 第Ⅰ章　遺跡の位置と環境

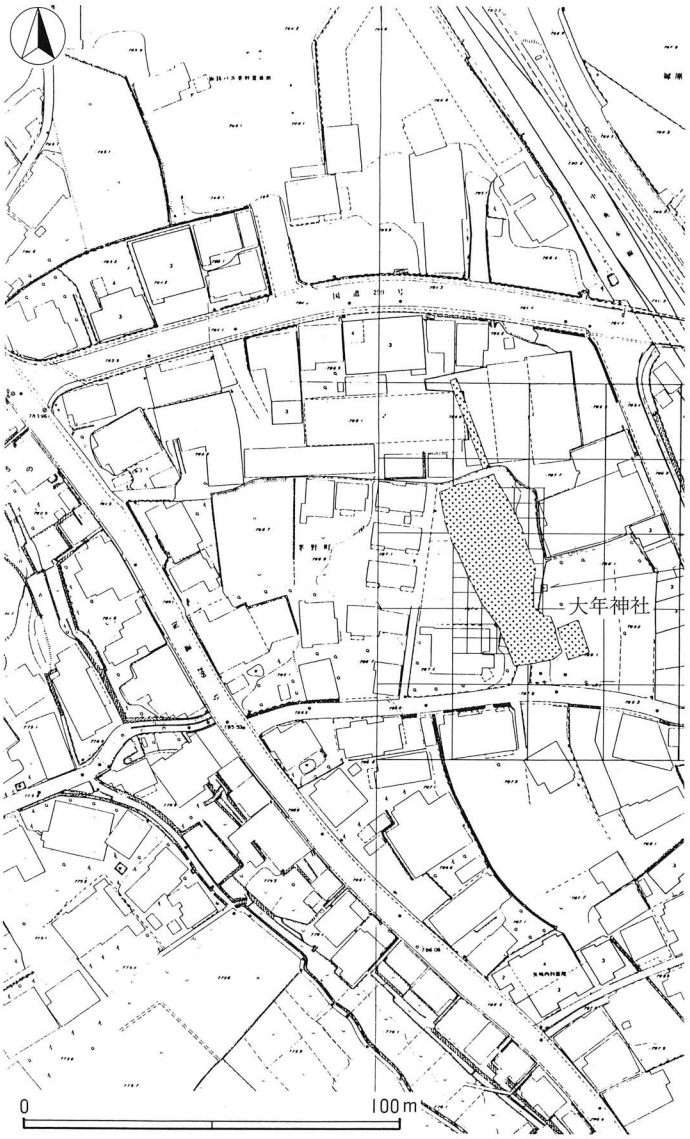
## 第１節　遺跡の立地と地理的環境

大歳神社遺跡は茅野市字大年3439-1番地他に所在する。遺跡地内には大年神社があり、平成６年12月26日に茅野市文化財に指定されている。

本遺跡は第Ⅳ段丘面に位置し、西は横内断層により形成された断層崖に至り、眼下に諏訪湖東方の沖積面を臨む。沖積面との比高差は約12mである。遺跡東側は上川沿いに広がる段丘面が続いている。遺跡地は礫層を地盤とし、緩やかな起伏がみられるが、遺跡は茅野駅周辺にあたり開発が進んでいるため、微地形はわかりにくくなっている。遺跡北方では標高がやや低くなり、現在切通しとなっている道路の付近で落ち込んでいたものとみられる。本遺跡から永明寺山麓に至るまでの間にはこの様な谷状の地形が埋没している可能性がある。




第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡（1/25,000）




第２図　大歳神社遺跡調査区配置図（1/2,000）

## 第２節　周辺の遺跡

本遺跡の周辺には縄文時代から近世に至るまでの間に多くの遺跡が営まれ、本遺跡の性格を考える上では周辺遺跡との関連の検討が欠かせない課題となる。

縄文時代の遺跡は大歳神社遺跡と同じ地形面に阿弥陀堂遺跡（茅野市遺跡台帳№222）があり、縄文時代中期後半から後期前半の集落跡が調査されている。断層崖下には本遺跡からはやや距離が離れるが御社宮司遺跡があり、縄文時代早期の土器が出土している。

弥生時代でも、断層崖をはさんで異なる地形面上に集落遺跡が発見されているが、遺跡数が増す傾向にある。崖下には家下遺跡（110）、構井遺跡（223）が分布し、段丘崖上の永明寺山麓から本遺跡までの地域に一本椹遺跡（107）、阿弥陀堂遺跡、永明中学校校庭遺跡（108）が広がっている。

古墳時代の集落については下蟹河原（112）、一本椹、構井遺跡でその片鱗がうかがわれるのみであり、永明寺山麓から上川までの地域における遺跡分布は判然としない。付近には上川河床古墳群など後期古墳群が分布していることが知られており、今後も集落遺跡が発見される可能性は高く、注意が必要な地域である。

奈良時代から平安時代前期の遺跡分布は不明である部分が多いが、平安時代後期の集落遺跡の存在が構井、阿弥陀堂遺跡で確認されている。

上原城跡、上原城下町（224）、阿弥陀堂遺跡で中世の遺物、遺構が認められている。周辺には永明寺跡、葛井神社、達屋酢蔵神社、犬射原神社、御座石神社など諏訪神社に関係する多くの神社が点在する。特に犬射原、御座石神社は矢ケ崎祭との関係で本遺跡内に所在する大年神社と深い関係が認められる。上記の諸遺跡の他にも各時代の遺物の散布が認められる遺跡が存在し、遺跡分布が濃厚である地域といえよう。

## 第３節　史料からみた大年神社

大年神社は現在も社殿があり存在しているが，鎌倉時代からその存在が認められる。関連する史料は史料１の嘉禎３年の「祝詞段」を初見として中世では史料９の天正６年まで見ることができ、古くからの様子を現代に伝えている。史料は下記のとおりである。

（史料１）嘉禎３(1237)年６月　　（茅野市史史料集117「祝詞段」）

（前略）上原ノ郷ニチカト若宮久須井十三所上下御社宮神、矢ヶ崎鎮守守木大歳御サン所ノ明神、粟沢鎮守、福沢ニ御社宮神、埴原田チカト、北大塩仁十五社諸大明神山明神タキリ権現キタリシヨノ権現三ツノ御山駒方明神（後略）

（史料２）建武２(1335)年２月９日　　（新信叢⑦82「大祝職位事書」）

一　神殿の内間ニ居給ふ神おハします仍て、神殿と申なつけまいらせて、それにて祈念を申、我身ハすてニ大明神の御正躰と罷成候いぬ、清器申給ハりて定めなり、今よりしてハふちやうなる事あるへからすと、おこたり申てぬかつか申、後乱座付、ゆわひの御酒、是ハ五願・小社祝勤、大瓶一、肴ハけつり物にてあるへし、各々食出しの御酒有、溝上・前宮と久須井・大歳・千野河これまてなり、末代可守此旨者なり、柊手宮引す、同銭米有神長とりあつめ、神事申なり、

建武二年乙亥二月九日

（史料３）文明11年(1479)閏9月10日　　（新信叢⑦146「守矢満実書留」）

閏九月十日　日照候、十三□(所か)柊宮□□□位秘法ヲ神長、継満祝殿□授、葬送七種秘印言□□行□秘印言□□□印言令授柏手宮ニテ御手帛後御酒、大政所保科殿被進候、又大宮有御参、御宝殿有御参、後御酒、神長瓶

子、一具御肴ケツリ物一計、磯並□□御立候、所政殿荒玉へ御参有、後神殿巡ニ三輪、後内玉殿中扁家御手帛、後神殿にて御祝殿御酒一献有、後溝上・楠井・大歳・千野同詣給。

（史料４）文明十六年(1484)　（新信叢⑦93「大祝職位事書」）

一　大歳大明神御社参有、御神殿に御へい・御手くら神長もたせ申、さて即位法、十三所行事、如例祝申、御へい神長給つて神献御手払申、

（史料５）文明十七年(1485)　（新信叢⑦95「大祝職位事書」）

（前略）　楠井へ御参候、印呪すきて、大歳大明神へ御参候、いまの道を折返し、矢崎石見殿居候し屋地をハ左になして、其こうちを東向うちのほせ大歳へ御参候、印呪すきて馬乗、軈大歳大明神御立候御前ニはたけアり、其畠にみちあり、馬を南頭二打上、五日市場へかゝり、河をうち越し、千野河大明神江御参候、千野川をへたて申て明神をはむかひに拝申、呪印過て御宿所へ御帰あるへく候、（中略）

文明十七年閏三月廿七日

（史料６）　（諏叢③11「諏訪上社物忌令之事」）

上十三所名帳

| | | | |
|---|---|---|---|
| 一番<br>所大明神　阿弥陀女神 | 二番<br>前宮大明神　如意輪観音 | 九<br>楠井大明神　薬師女神 | 十<br>溝上大明神　聖観音 |
| 三番<br>磯並大明神　千手観音 | 四<br>大歳大明神　地蔵菩薩 | 十一<br>瀬大明神　弥勒 | 十二<br>玉尾大明神　愛染女神 |
| 五<br>荒玉大明神　弁才天 | 六<br>千野河大明神　文殊 | 十三<br>穂謨大明神　釈迦如来 | |
| 八<br>若御子大明神　勝軍 | 七<br>柏手大明神　虚空蔵 | | |

（史料７）　（新信叢⑦110～111「年内神事次第旧記」）

一　禰使殿前御穀ハ千野神主・矢崎神主・栗林神主・上原神主・放生会神主・千草湛神主・松木湛神主・九月九日神主・下桑原神主・大歳神主・御最所神主、正月一日御室神主人別ニたかもり一はい、瓶子一、御贄一、白米をとりあつめて毎年ニ春秋勤め申へし、

（史料８）　（新信叢⑦114「年内神事次第旧記」）

一　同（四月）廿七日矢崎祭、大歳神田五反二立、赤御穀也、うつらの御贄参、神田今ハ三反あり、

（史料９）天正６年(1578)２月21日　（新信叢②84「上諏訪造宮帳」）

（前略）

一　大歳　宝殿　玉垣　鳥居

是も近年退転、御薗・粟沢之役

（後略）

中世においては「大年」を「大歳」と表記することが多く、伊藤富雄は「年内神事次第旧記」（新信叢⑦103）の「正月一日にみむろへ年入申、是はたさい神なり、年之神是なり、民人之玉しいなり、」にみえる「たさい神」が「太歳」、つまり「大歳」であると考えている。この「大歳」は稲の神である事を述べ、これが大年神社の祭神としている。大年神社は全国的に見られる神社であり、後述の産土神中心の十三所の中においては大年神社は特異な存在といえる。

史料１では大年神社が矢ヶ崎の鎮守であることがわかる。現在大年神社は塚原に所在しているが、塚原区の前身である塚原村は近世に矢ヶ崎村より分村したものであるため、中世より矢ヶ崎にあったことがこの史料によってわかる。享保３(1733)年作成の『旧諏訪藩主手元絵図』では大年神社が現在位置にあることが見

える。中世の絵図は存在していないため、中世の神社の位置は明確にはわからない。しかし、史料6からおよそ現在位置に社殿が存在していたことが想定できる。

史料2の「諏訪上社物忌令之事」は数種類あり、最も古いと考えられている諏訪上社所蔵文書では大年神社の記載は見えず、15世紀に書写されたと考えられる守矢家所蔵文書に見えるので、後者を使用した。

史料2・3・4・5は諏訪氏が諏訪上社の大祝に就任する時の儀式についての記録である。史料2と4・5の「大祝職位事書」には取り上げた史料以外にも応永4(1397)年に見られる。史料中には他に「十三所」と表記され（新信叢⑦96)、史料4・6により大年神社が「十三所」の一つであることは明らかである。以上の史料によると大年神社は大祝就任時の儀式の時に大祝が巡回し、他の十三所の神社と同じように「印呪」を行った場所であることがわかる。

史料8には矢崎祭における大年神社についての記載が見られる。矢崎祭は現在は矢ヶ崎祭と言い、4月27日に御座石神社で行われている。大年神社は、御座石神社で祭礼の準備が整ったことを諏訪上社に知らせるため、狼煙を上げる役目を負っている。史料8からは祭礼のための神田が5反あり、「赤五穀」と「うつら(鶉)」の贄が奉納されていたことがわかる。「年内神事次第旧記」は15世紀に作成されたことが考えられ、この頃迄には神田は3反に減っていた。

史料9では6年毎に行われる上社本宮の造営に大年神社も建て替えられ、建て替えを請け負う郷は決まっており、伊那郡の御薗と諏訪郡の粟沢が行っていた。しかし史料9自体が長年にわたる戦乱によって退転していた祭礼の復興をめざすために作成された資料であるため、大年神社の荒廃が進んでいたようである。

（柳川　英司）

# 第II章　発掘調査の概要

## 第1節　発掘調査に至るまでの経過

平成5年度、県単街路事業大年線建設計画に伴い、諏訪建設事務所より埋蔵文化財に関する照会を受けた。茅野市教育委員会では、道路建設予定地が大年神社境内付近にあたり、遺物の散布が認められることから、遺跡発見届を文化庁に提出するとともに、遺跡保護の必要がある旨を回答した。平成5年9月30日に大歳神社遺跡に関する保護協議が行われた。

この保護協議の結果に基づき、5教文第7－103号緊急地方道（A）3・4・2茅野市大年線にかかる埋蔵文化財の保護についてが通知された。それによると大歳神社遺跡の埋蔵文化財については、発掘調査による記録保存を図ることとされた。発掘調査は茅野市教育委員会に委託し、発掘調査の計画および経費については事業主体者たる諏訪建設事務所と茅野市教育委員会が協議のうえ決定することとなった。この通知により、諏訪地方事務所と茅野市教育委員会が協議を行い、調査計画を策定した。茅野市教育委員会は平成6年、市議会に予算案を提出し事業に備えた。予算案の議決を受け、平成6年4月7日付で諏訪建設事務所と埋蔵文化財包蔵地発掘調査委託の契約を締結し、4月7日より現地調査に入った。

さらに大年線建設に伴い、建設予定地内の防火貯水槽が大年神社境内に移転されることとなり、発掘調査による記録保存を行うこととなった。発掘調査は市の単独事業として行い、調査費用については補正予算を組み対応することとなり、調査費用10,653,000円で事業を行うこととなった。

## 第２節　発掘調査の経過と方法

### １．調査の経過

道路建設に伴う調査は４月７日より開始し、調査準備の後用地内について重機による試掘調査を行った。試掘調査において古墳時代の住居址、時期不明の土坑が検出されたため遺構が発見された部分を中心に調査区を設定し、重機による表土剝ぎと本調査の準備を進めた。

５月12日から遺構検出作業に入り、遺構内調査と平行して行った。礫層上面を確認面としたため遺構確認に手間取り、遺構数に比べ検出作業の時間が大幅に伸びた。６月13日の時点で、住居址１基、黒色土の落ち込み約30基が検出された。住居址の調査は７月22日に終了した。防火貯水槽建設に伴う調査は７月21日より開始し、道路建設に伴う調査と平行して実施した。住居址の調査と平行して土坑等の調査を行った。遺構実測作業は、重複関係にある遺構について、遺構完掘後に最小限の実測を行い、本格的に実測作業に入ったのは遺構内調査が全て終了した７月29日、実測作業が終了したのは８月18日である。また基準点測量を株式会社嶺水に、空中写真による発掘調査範囲全景の撮影を東京航業株式会社に委託し実施した。

遺物整理作業は、雨により現場作業が行えない日や、現場作業終了後を利用して行ったが、本格的に整理作業に入ったのは12月からである。報告書作成にあたっては第９図８・９の遺物実測作業とトレースを守矢昌文が行い、第Ⅰ章第３節を柳川英司が執筆した。

### ２．調査の方法

試掘時遺構確認面は11層上面、本調査時は、10層下部を確認面とした。遺物出土状況などの記録は、写真と図面により行い、遺物が集中する部分については縮尺1/20の遺物分布図を作成した。他の遺物は、遺構およびグリッド単位に取り上げた。遺物の取り上げ作業は調査員と、調査補助員が行った。

測量の基準点は、1/1,000の公図を用い、水準点測量を株式会社嶺水に委託した。

### ３．調査組織

調査主体者　両角昭二（茅野市教育委員会教育長）

事　務　局　宮下安雄（教育次長）

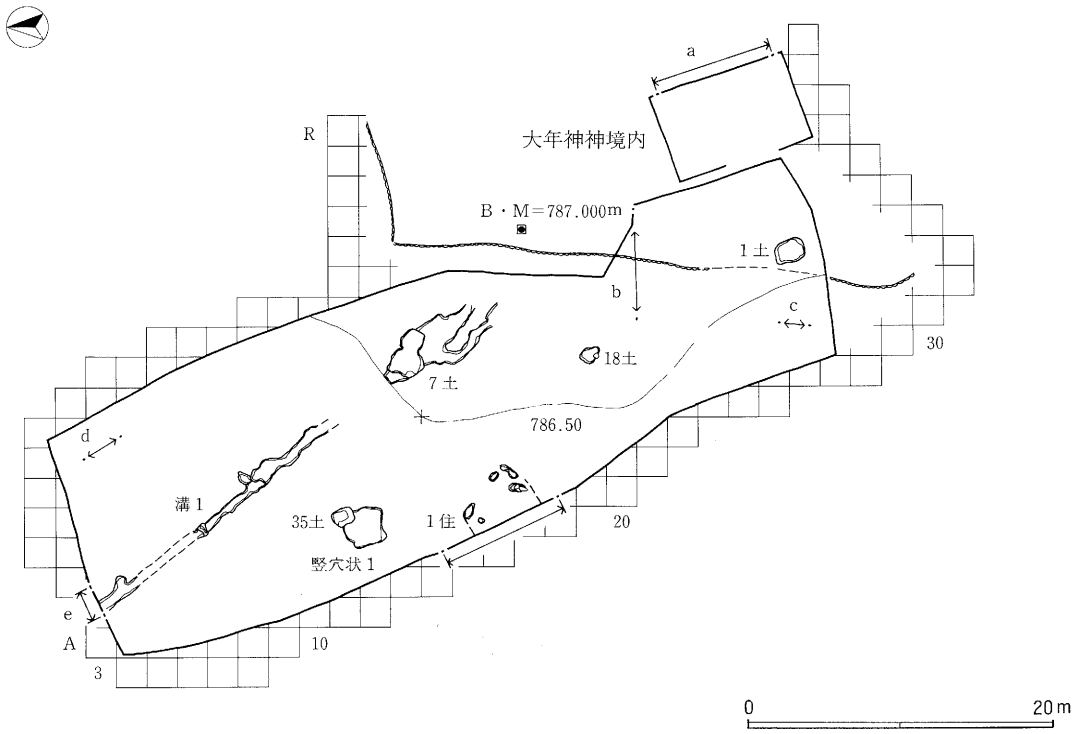
文化財調査室　両角英行（室長）　鵜飼幸雄（文化財係長）　守矢昌文　小林深志（尖石考古館学芸員兼務）　大谷勝己　小池岳史　功刀　司　百瀬一郎　小林健治　柳川英司　大月三千代

調査担当者　功刀　司

発掘調査・整理作業協力者

赤堀彰子　牛山徳博　占部美恵　武居八千代　堀内　潭　矢嶋恵美子(補助員)　赤羽久男　伊藤京子　伊藤正三　伊東みさを　植松昭三　牛山矩子　太田友子　金子清春　川野　潔　北原義次　久根種則　栗原　昇　佐藤時雄　清水園恵　白籏スエ子　関　秀樹　立木利治　立岩貴江子　長田　尚　長田　真　花岡照友　浜　芳男　平尾弘子　福田幸宗　宮坂ちよ江　目黒恵子　森　浩子　吉田　勇

なお作業員確保については、一部茅野市シルバー人材センターに委託した。発掘調査の実施にあたり諏訪地方事務所土地改良課の埋蔵文化財に対する御理解と御助力により、調査を円滑に進めることができた。個々に記し、感謝の意を表し銘記したい。




第3図　遺構分布図（1/500）

また発掘調査、報告書作成にあたり、宮坂光昭氏、臼居直之氏の御指導を得た。ここに記し感謝の意を表したい。

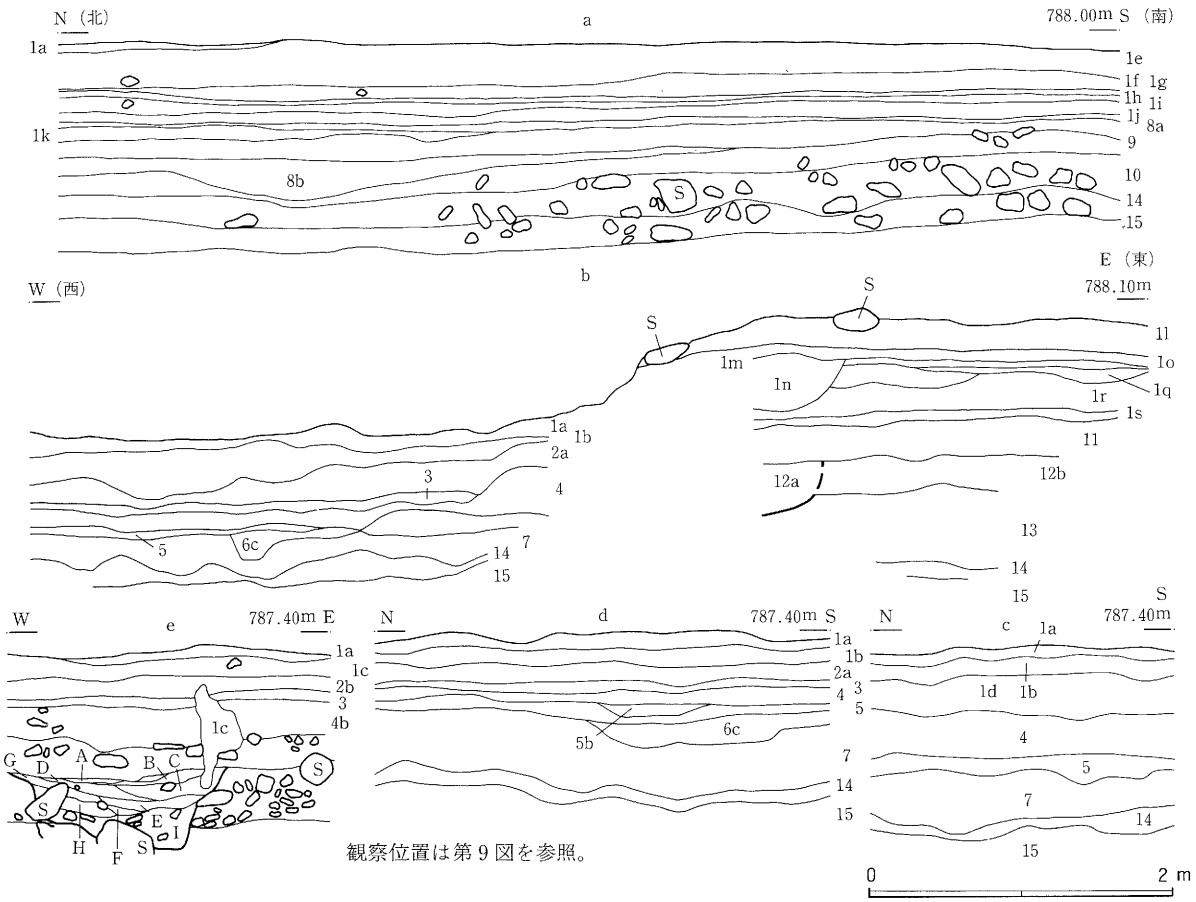
# 第Ⅲ章　発掘された遺構と遺物

## 第1節　遺跡の層序

土層堆積状況の観察において目的としたのは、神社境内の境界の検出、遺物包含層の検出であった。現在の神社境内敷地の外周には石垣が構築されていたが、西側境界では石垣ではなく川原石を並べた石列により駐車場敷地との境界が示されていた。石列下部から現代の廃棄物が多量に出土したことからみて、石列は現代に属するものと思われた。駐車場敷地においては、現代の砕石層の下部に水田が確認され(第3層)、さらにその下層にも不明瞭ながら水田の痕跡が確認された（第4図第5層)。水田の存在を示すものと思われる、赤褐色土層は現在の境内境界線とほぼ同じ地点で消滅しており、水田が耕作されていた時期から現在に至るまで、水田の範囲はほとんど変更されていなかったものと思われる。赤褐色土層より上位の土層から、中世から近世のかわらけ破片が出土した。また黒褐色土層と黄褐色土層の分層線上からはかわらけ、古墳時代初頭の台付甕および器台破片が出土している。遺物の出土状況からみて黒褐色土層中に遺物包含層が存在し、より上位に存在したと思われる中・近世の遺物包含層は水田造成時に破壊されたものと考えられる。神社境内の土層堆積状況からみると、現代の遺物を伴う黄褐色土層が確認され、5層から7層まで古墳時代から現代の遺物が混在して出土したが、7b層からは古墳時代の高坏と台付甕破片がまとまって出土したことから、神社境内にはやや浅い位置に遺構あるいは包含層が遺存している可能性が高い。

今回の調査で遺構が確認できたのは暗褐色土下面（第3図⑦）から砂質黄褐色礫層中（第3図⑨）であっ

た。遺構と認定し得るものは覆土中に礫を含まないか、少量に留まるものである。調査区北半では礫を含まない土層が帯状に分布していた。




①ａ砕石　礫の色調が白味がかっている。ｂ砕石　礫表面が茶色がかっている。ｃ暗褐色土　ビニール等現代の遺物を含む。ｄ暗褐色土　粘性は弱い。17cm以下の楕円礫、円礫、所謂鉄平石が主体。煉瓦破片、瓦破片を多く含む。ｅ灰褐色土　粒子は粗い。１cm以下の礫を多く、５cm以下のロームブロックを少量含む。ｆ暗灰褐色土　10cm以下の礫を多く、15cm以下のロームブロックを少量含む。ｇ黄褐色土　粒子は粗く、締りは極端に強い。ローム粒子、５cm以下のロームブロックを多く含む。ｈ灰褐色土　８cm以下の礫を多く含む。ｉ黄褐色土　締りが極端に強い。５cm以下のロームブロック、１cm以下の礫を少量含む。ｊ黒褐色土　締りが極端に強い。白色粒子を多く、３cm以下の礫を稀に含む。ｋ黒褐色土　締りが極端に強い。白色粒子を多く、20cm以下の礫を稀に含む。ｌ暗褐色土　５cm以下の砕石、炭化物を多く含む。ｍ黒色土　締りはない。ビニール、炭化物、焼土を多く含む。ｎ暗褐色土　締りはない。底面にビニール、ガラス片、焼土を多く含む。ｏ暗褐色土　粒子は細かく、締りはない。粘性は弱い。３cm以下の炭化物を少量含む。ｐ暗褐色土　締りはない。ガラス片、炭化物、焼土を多く含む。ｑ黒褐色土　ガラス片、焼土ブロック、10cm以下の炭化物を少量含む。ｒ暗褐色土　ビニールコード、５cm以下の礫を少量含む。ｓ黄褐色土　粒子は粗い。鉄板片、不明陶器片３cm以下の礫を少量含む。

②ａ暗褐色土　粒子は粗い。２cm以下の小円礫を稀に含む他、白色粒子、石英、橙色粒子を少量含む。ｂ暗褐色土　５cm以下の礫を稀に含む。

③赤褐色土　褐鉄鉱であると思われる暗い橙色の粒子を多く含む。長石、１cm以下の礫を少量含む。水田床土。

④黒褐色土　粒子は細かく、締りがある。粘性は強い。上下に伸びる褐鉄鉱が多く観察され、中に径１mm以下の中空の高師小僧に類似するものも含まれる。２cm以下の小円礫を少量含む。５cm以下の礫、白色粒子を少量含む。ｂ茶褐色土　10cm以下の礫、白色石粒、炭化物を少量含む。ｃ暗褐色土　20cm以下の礫を少量、炭化物を稀に含む。

⑤赤味がかった茶褐色土　粒子は細かく、締りがある。粘性は弱い。３cm以下の小円礫、２mm以下の白色粒子、１mm以下の褐鉄鉱粒子を少量、鉄分によりわずかに赤味がかっている。水田床土。

⑥ａ黒褐色土　粒子はやや粗く、締り、粘性は弱い。20cm以下の長楕円の礫、円礫、白色粒子、橙色粒子を少量含む。ｂ⑥ａ層より橙色粒子が少ない。ｃ炭化物を少量含む。橙色粒子を稀に含む。

⑦茶褐色土　粒子はやや粗く、締りがある。粘性は弱い。20cm以下の長楕円の礫、楕円の礫、円礫を多く、橙色粒子を少量含む。

⑧ａ黒褐色土　粒子は細かく、締りがある。粘性は弱い。８cm以下の礫を多く含む。５mm以下の炭化物を少量含む。ｂ⑧ａに比べ礫が少ない。

⑨茶褐色土　粒子は細かく、締りがある。粘性は弱い。20cm以下の礫を多く含む。

⑩暗褐色土　粒子は細かく、締りがある。粘性は弱い。40cm以下の礫を多く含む。

⑪黒褐色土　粒子は細かく、締りがある。粘性は弱い。30cm以下の礫を多く含む他、３mm以下の炭化物を稀に含む。上部から弥生土器、かわらけが出土。

⑫ａ黒褐色土　粒子は細かく、締りがある。粘性は弱い。20cm以下の礫を少量含む。古墳時代の遺物を含む。ｂ黒褐色土　⑫ａより礫を多く含む。

⑬暗黄褐色土　粒子は細かく、締りがある。粘性は弱い。20cm以下の礫を多く含む。

⑭暗黄褐色土　砂質土。10cm以下の長楕円の礫、楕円の礫、円礫を多く含む。下部に向うに従い、径を減じる傾向が見られる。

⑮黄褐色土　砂質土。粒子は粗く、締りがある。粘性は弱い。20cm以下の礫を少量含む。

第１号溝覆土　Ａ黒色土。Ｂ赤褐色土。褐鉄鉱を含む。Ｃ黒色土。Ｄ黒褐色土。Ｅ黒褐色土。Ｆ黒褐色土。５cm以下の礫を少量含む。Ｇ暗褐色土。５cm以下の礫を少量含む。Ｈ茶褐色土。１cm以下の礫を少量含む。Ｉ黒褐色土。20cm以下の礫を少量含む。

第４図　調査区土層断面図（1/50）

## 第２節　縄文時代の遺構と遺物

### １．縄文時代の遺構と遺物

第18号土坑（第５図、図版２－４，５）

**検出状況**　Ｊ・K19グリッドに位置する。礫層を確認面とし、遺構内には礫が含まれないことから、遺構の存在が判明した。

**遺構の構造**　平面形はほぼ楕円形に近い不整形を呈する。礫層中に掘り込まれている。立上がりはタライ状に近いが礫を抜取って掘り込まれたためか乱れている部分がある。

**遺物の出土状況**　遺構覆土から黒耀石剥片、土器破片が出土した。覆土上部に集中する傾向がみられる。

**出土遺物**　土器は全て破片資料である。口縁部から口唇部にかけて絡状体圧痕文が施された土器（第４図１～３）と、内面に条痕文が施された土器（４～７）が出土した。石器には黒耀石剥片４点、チャート製剥片１点がある。本址は覆土から出土した土器により、縄文時代早期末に属すものと考えられる。

### ２．他の出土遺物（第４図）

調査区全面から散発的に遺物が採集されたが、Ｊ14グリッド周辺と遺構Ａ覆土から比較的まとまって出土した。遺物が包含されていた土層は第７層であり、Ｊ14グリッド付近では重機による表土剥ぎ作業で第７層を残し、調査を行ったことから遺物が出土したものと思われる。また神社境内から黒耀石剥片が表面採集されていることから縄文時代の遺物は広範囲に分布しているものと考えられる。

### ３．縄文時代の遺物について

**土器の分類と時期**　土器では早期後半から末にかけての土器が出土している。器形、施文原体と文様、調整により分類できる（第５図）。

第Ｉ群　胎土に繊維を含む土器。縄文時代早期後葉から前期初頭にかけての土器群である。

１類　貝殻腹縁による条痕、刺突文により文様が構成される。

Ａ種　条痕により文様が構成される。刺突による鋸歯状文が施される（７）。

Ｂ種　表裏に条痕が施される（８）。

Ｃ種　裏面に条痕が施される。条痕はＢ種に比べ目が細かく、深いものが含まれる。表面は丁寧に調整され光沢があり、さらに擦痕状の調整が施される（９）。

２類　絡状体圧痕文、撚糸文が施される。

Ａ種　絡状体圧痕文が施された土器（10,11）。口縁部の土器破片である。地文に撚糸文を施し、口縁部から口唇部にかけて絡状体圧痕文を施文する。装飾的な文様はみられない。胎土に繊維を含む。

Ｂ種　撚糸文が施文された土器（12～19）。胴部から底部が中心である。胎土に繊維を含む。

３類　縄文が施文される。繊維の量と縄文原体から細分できる。

Ａ種　撚りが粗く、節が大きい縄文原体により施文される。条間が開いており、軸巻である可能性が認められる（20～25）。胎土に多量の繊維を含む。器形がわかる破片は少ないが、底部破片（22）から尖底あるいは丸底を呈していたことがわかる。

Ｂ種　胎土に含まれる繊維の量が少ない。節が小振りの斜縄文を施文するもの（26,27,30）と無節斜状文が施されるものがある（28,29,31,32）。29は羽状構成をとる。

4類　無文の土器。

A種　繊維を多量に含む（32～34）。

B種　微量の繊維を含む。

5類　薄手の無文土器である。胎土には繊維が微量含まれる。指頭圧痕が観察でき(35～38)、擦痕状の調整を加える土器が含まれる（36）。

第II群　縄文時代中期後半加曽利E系の土器（40）。

第III群　縄文時代後期前半から中葉の土器（41）が出土している。

文様構成からみると第I群1類A種はB種とともに早期後葉鵜ケ島台式に比定される土器であると思われる。3類B種は胎土や縄文原体の特徴、縄文が横帯構成、羽状構成をとること繊維の含有量がA種とはかけはなれていることから、前期初頭から前半の縄文系土器群であると思われる。第I群土器の分布は、出土地点が不明である資料が多い3類B種を除き、J14グリッド付近にまとまる傾向にあり、第18号土坑は土器集

第5図　縄文時代の遺構と遺物（遺構1/60、遺物1/3）

中地点の外縁に位置しているものと考えられる。共伴関係が捉えられるのは、第18号土坑における第Ⅰ群土器1類C種と2類A種、B種である。

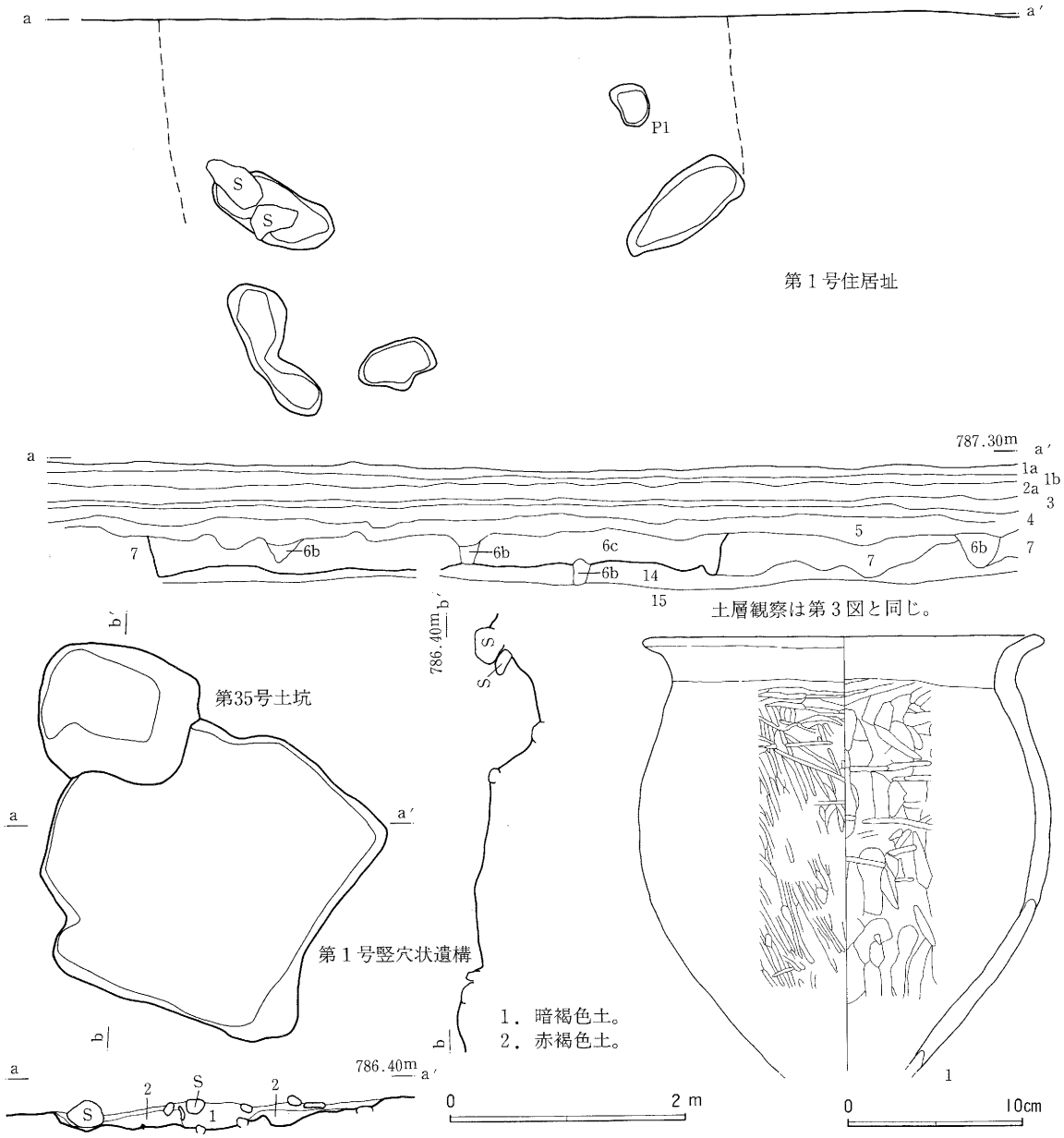
石器では微細な剥離痕を有する剥片が3点みられる他、調整加工を有する剥片4点、石核2点、原石3点、黒耀石剥片15点、チャート製剥片2点、頁岩製剥片1点が出土し、石材は黒耀石が大部分を占める。原石は重さ10g以下で粒状、剥片状の小さなものであるが、石核は26g以下で原石より大きい。

## 第3節　弥生時代終末から古墳時代の遺構と遺物

第1号住居址（第6図）

**検出状況**　調査区中央西半から検出された。試掘調査時に確認された住居址である。確認面は礫層直上であるが、遺構は黒色土中から掘り込まれており、周溝と柱穴を確認するに留まった。

**遺構の構造**　柱穴の配置と周溝から、平面形は方形を呈するものと予測される。炉址は検出されなかった。



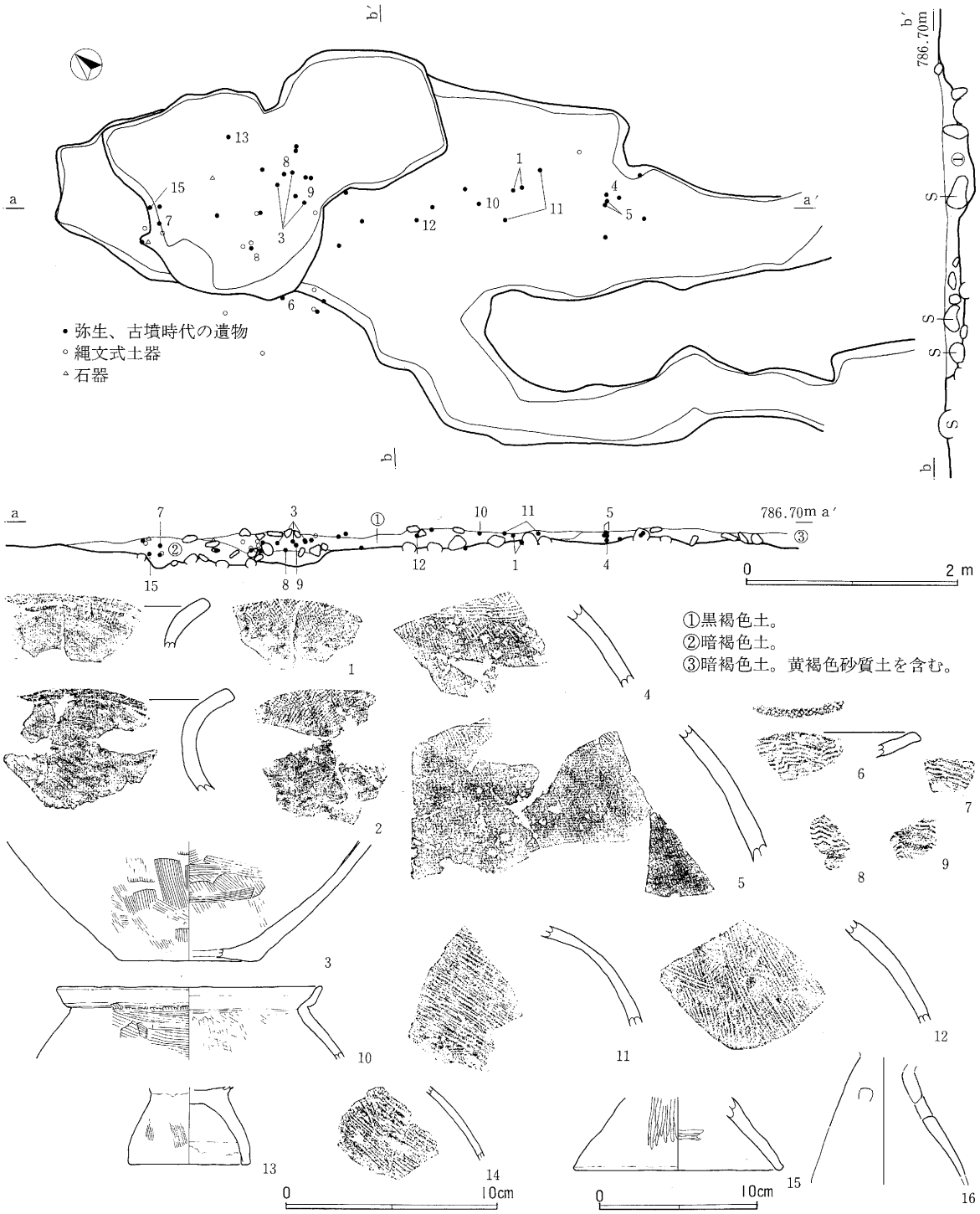

第6図　第1号住居址、第1号竪穴状遺構、第35号土坑（遺構1/60、遺物1/4）

**遺物の出土状況**　覆土中から土師器破片、須恵器破片が出土した。いずれも覆土上層からの出土であり、断面精査の際出土したものである。第６図１の甕は、試掘調査の際第１号住居址付近から出土したものである。出土遺物がいずれも小破片であるため、時期が確定できない。

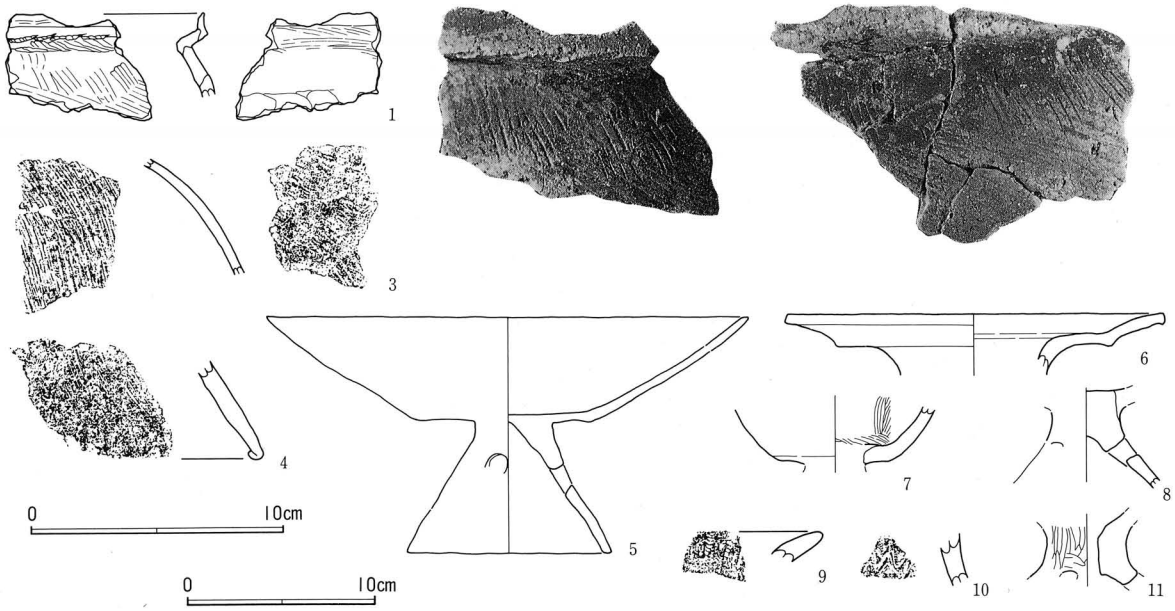
**第７号土坑と第１号遺物集中（第７図、図版２－１，２，３）**

**検出状況**　調査区中央東よりから検出された。検出した面は礫層上面で、覆土に礫が含まれていないことから遺構の存在が把握できた。

**遺構の構造**　第７号土坑の平面形は不整形で、立上がりも緩やかである。床面や炉址などの施設は検出でき




第７図　第７号土坑、第１号溝と第１号遺物集中（遺構1/60、遺物３，10，13，15，16 1/4、他1/3）




第８図　第２号遺物集中出土遺物と他の出土遺物（５～８，11 1/4、１～４，９，10 1/3、写真は任意）

なかった。

**遺物の出土状況**　遺物の密度は第７号土坑覆土に中心があるが、遺物の平面分布は溝１の延長線上に長く伸びており、第７図15のように第７号土坑覆土の出土遺物と溝覆土の出土遺物が接合する事例がある。垂直分布から見ると遺物の多くはやはり溝１の延長線上に伸びる第①層から出土している。以上の調査所見からは、第７号土坑周辺に集中する遺物は第７号土坑覆土の出土遺物とは考えにくく、掘り方の内西半に検出された溝１の延長線上に伸びる掘り方に伴う遺物であると考えるのが妥当であり、遺物の分布状況からは大部分の遺物が溝１覆土出土遺物と考えられる。第７号土坑覆土出土と考えられる遺物は７および15である。古墳時代初頭のＳ字甕口縁部、台付甕底部、器台および壷が出土した。ほかに櫛描波状文を施した土器破片が少量伴う。出土遺物から弥生時代終末から古墳時代初頭以前に属すると考えられる。

**第２号遺物集中**（第８図）

**検出状況**　グリッドの調査区土層断面精査中に、第８ｂ層より古墳時代の遺物集中箇所が検出された。遺物が出土した地点では緩やかな落ち込みが観察されたが掘り方を伴う遺構であるとの断定は難しく、遺物集中として取扱った。

**遺構の構造**　遺物は緩やかな落ち込みを示す第８ｂ層と第９層の分層線に沿って分布していた。

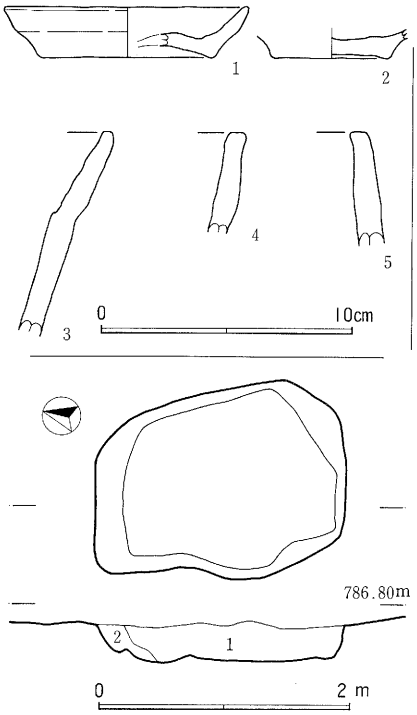
**遺物の出土状況**　遺物集中は古墳時代初頭の高坏１個体とＳ字甕口縁からなる。高坏はまとまって遺存していたが、Ｓ字甕口縁部は高坏の周囲に散在していたかのような状況であったが、断面のみの調査であるため詳細は不明とするほかない。高坏は坏部内面には縦ヘラミガキ、脚部外面では上部で縦ヘラミガキが加えられ裾の部分では横ヘラミガキが、内面はナデが加えられている。甕口縁部では刷毛による刺突が特徴的である。

他の出土遺物（第８図）

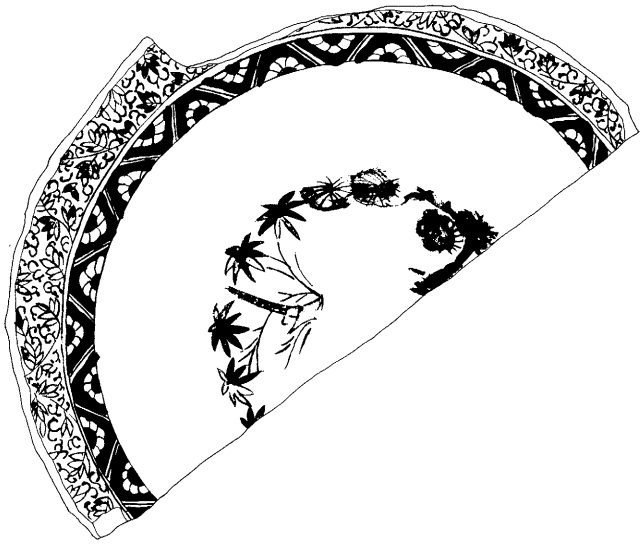
調査区内から若干の古墳時代の遺物が出土している。６は12ａ層、７は４層から、９はＦからＪの18から20の範囲で、８と11は試掘調査時に出土している。出土層位はいずれも第７層である。

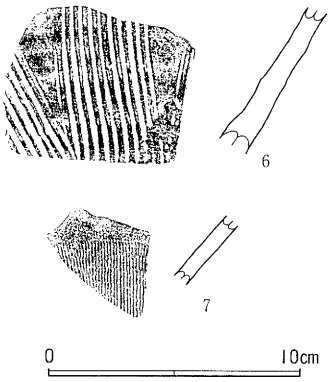
## 第４節　中世の出土遺物

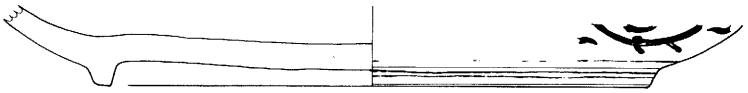
中世の遺構は検出されなかったが、遺物が調査区内から出土した。かわらけと内耳鍋（第８図３～５）が

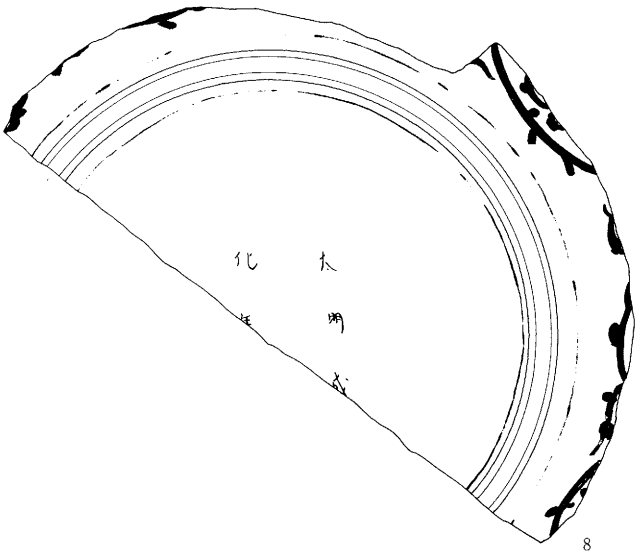


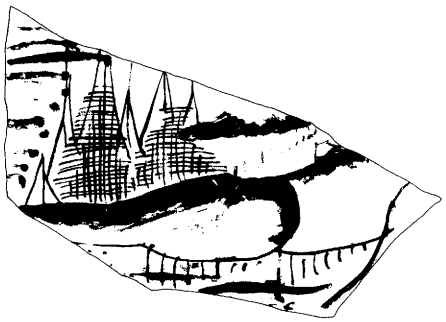

第１号土坑
1．暗茶褐色土。礫を含む。
2．黄褐色土。

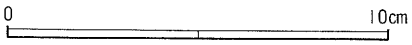









第９図　中世から近世以降および時期不明の遺構と出土遺物（遺構1/60、遺物１～７ 1/3、８，９ 1/2）

あり、いずれも破片資料であるうえ、多くの遺物が撹乱層出土であり、遺跡の性格等に関しては未だ不明であるというほかない。

かわらけには、手捏ね成形によるかわらけとロクロ成形（1，2）によるものの2群がある。破片資料が大部分を占めるため、図示できるのはロクロ成形の2個体に過ぎない。

## 第5節　近世以降の遺構と遺物

第1号土坑（第9図）

検出状況　調査区南端から検出された。遺構覆土に礫が含まれないことから、存在が判明した遺構である。

遺構の構造　平面形は方形を呈する。立上がりは垂直に近く明瞭である。坑底は平坦である。

遺物の出土状況　摺り鉢破片1点が出土した（6）。摺鉢破片から、近世の遺構であると考えられる。

他の出土遺物（第9図8，9）

調査区南半の第1d層より皿破片2点、摺鉢破片1点（7）が出土した。出土状況からは廃棄された時期は特定できない。

## 第6節　時期不明の遺構

第1号竪穴状遺構、第35号土坑（第6図）

検出状況　グリッドに位置し、相互に重複する。新旧関係は不明である。

遺構の構造　第1号竪穴状遺構は、平面形は方形を呈する。両遺構とも出土遺物はなく、時期は不明である。

水田址（第4図）

調査区ほぼ全域の断面で観察された。褐鉄鉱と思われる赤褐色の層が2層検出されたことより水田面が判明した。上面の水田からはビニール残片が出土することから、現代に至るまで使用されていた水田であると考えられた。下位の水田からは出土遺物がなく時期が特定できない。水田は土層断面bでみる限り現在の大年神社社域の範囲外に広がっていたものとみられる。

# 第Ⅳ章　結　　語

1．縄文時代の遺物と遺構分布について

縄文時代の遺構は土坑1基のみである。八ケ岳山麓から入笠から守屋山麓にかけて近年縄文時代早期の遺跡が検出されてきている。多くは陥穴と住居址、集石、墓坑のいずれかからなる遺跡である。大歳神社遺跡とは距離からみて相当離れてはいるが、御社宮司遺跡では絡状体圧痕文が施された土器群が出土し、縄文時代早期から生活領域として沖積低地周辺が利用されていたことが判明している。縄文時代早期の遺跡群構成はなお不明である部分が多いが、八ケ岳山麓稗田頭B遺跡（小林　1994）や、入笠山麓の天狗山遺跡（百瀬1883）などにみられるように、陥穴を主な構成要素とする時期と、生活の場として利用された時期のふたつの遺跡類型が重複している可能性が指摘できる遺跡も存在することから、大歳神社遺跡も単独で機能していたと考えるよりも、周辺に大歳神社遺跡とセット関係にある遺跡が存在すると考えられる。沖積低地周辺に展開する遺跡群の構成が、山麓部分に展開する遺跡群と同質の遺跡群構成をとるのかを、今後の調査課題の一つとしたい。

2．弥生時代終末から古墳時代初頭の遺物について

弥生時代終末から古墳時代初頭の遺物群は今回の調査成果の中で重要であると考えられる。本遺跡出土の土器群は、刷毛による刺突を有するＳ字甕や有段高坏にみられるように東海地方とのつながりが濃厚にみてとられる。諏訪地域においては古墳時代初頭の資料は稀であり、本遺跡出土遺物は諏訪地域の古墳出現期の研究において重要な資料であると思われる。

遺物群はＳ字甕、器台を中心とし、一般的な集落遺跡とは土器の組成が異なる。明確な遺構は検出されなかったが、出土した遺物からみても大歳神社遺跡周辺に、同時期の遺構が埋蔵されている可能性は高いと考えられる。周辺地域の開発が進展している現在、本遺跡のように市街地に立地する遺跡の保護については注意を払う必要がある。

3．中世から近世の遺構分布について

大歳神社遺跡出土のかわらけは茅野市磯並遺跡、下諏訪町殿村・東照寺址遺跡における編年（守矢　1987、宮坂　1990）を参考に考えれば、大きく13Ｃ前後と15Ｃの２時期に区分できるものと考えられる。今回の調査においては、中世遺物は内耳土器とかわらけに限られ、陶磁器、鉄製品の出土はみられず、希少な遺物ながらかわらけの出土が目立つ点で土器の構成は磯並遺跡に類似するものと想定できよう。内耳土器は形状の特徴から15Ｃのかわらけと時間的に近く、大年神社に関わる神事との関連からかわらけと内耳土器のセット関係も注目される遺物構成であると思われる。今回の調査では神社に関わる遺構は検出できなかったが、かわらけの出土により少なくとも本遺跡周辺に大年神社が存在していた可能性は否定できないものと考えられる。今後の周辺地域の調査により大歳神社の起源および位置が判明する可能性は残されている。また大歳神社周辺の村落景観に関わるものとして第１号土坑は今後注意していきたい遺構である。

引用参考文献


『諏訪史料叢書』　巻３　守矢文書　「諏訪上社物忌令之事」　（「諏叢」と略し数字は巻数とページ数を示す）

『新編信濃史料叢書』　第２巻　諏訪上社文書　「上諏訪造宮帳」　（「新信叢」と略し数字は巻数とページ数を示す）

第７巻　守矢文書　「守矢満実書留」「大祝職位事書」「年内神事次第旧記」

『茅野市史　史料編』　茅野文書　「祝詞段」

小林　健治　1994　『稗田頭Ｂ遺跡』茅野市教育委員会

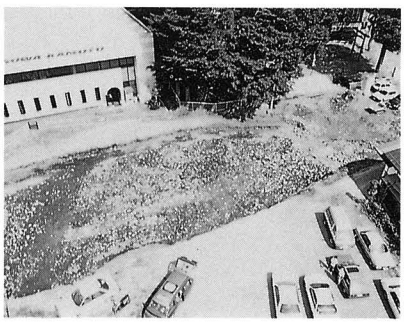
宮坂　清　1990　「Ⅳ　成果と課題　２　殿村・東照寺址遺跡の中世陶磁器・土器類について」『殿村・東照寺址遺跡』下諏訪町教育委員会

百瀬　一郎　1993　『天狗山遺跡』茅野市教育委員会

守矢　昌文　1987　「第Ⅵ章第１節　磯並遺跡出土のかわらけについて」『磯並遺跡』茅野市教育委員会


図版Ⅰ

◁１．試掘調査風景（南より）



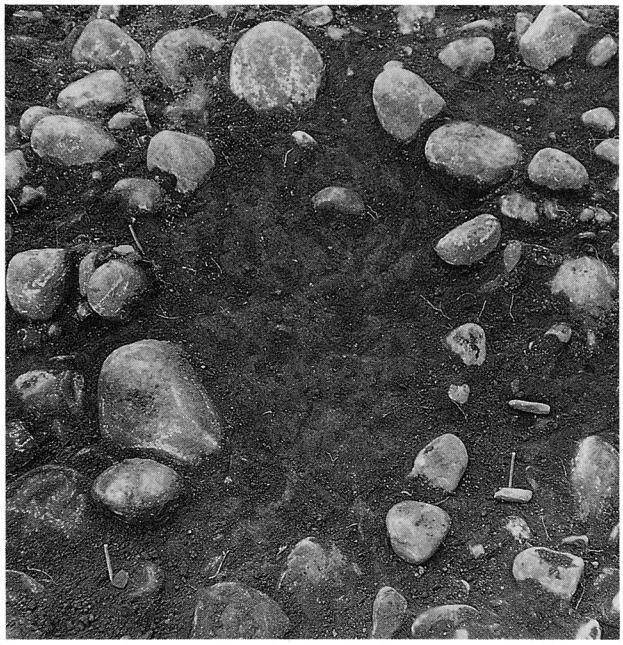
▷２．調査区全景

図版 2

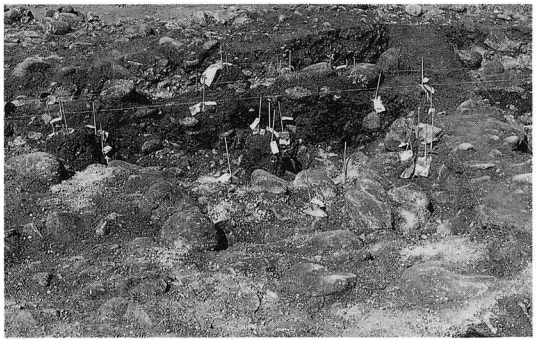
△1．第７号土坑他検出状況

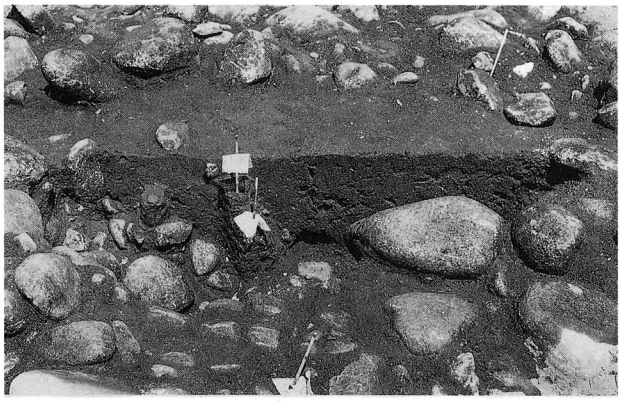
▷2．第７号土坑調査風景（南より）

▽4．第18号土坑検出状況（南より）



▽3．第７号土坑遺物検出状況（西より）





◁5．第18号土坑
土層断面（西より）

△6．第１号土坑（北より）

# 報 告 書 抄 録

| | |
|---|---|
| ふりがな | おおとしじんじゃいせき |
| 書名 | 大歳神社遺跡 |
| 副書名 | 平成6年度緊急地方道(A)3・4・2茅野市大年線・防火貯水槽設置工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | |
| シリーズ番号 | |
| 編著者名 | 功刀　司、柳川英司 |
| 編集機関 | 茅野市教育委員会 |
| 所在地 | 〒391　長野県茅野市塚原二丁目6番1号　TEL 0266-72-2101 |
| 発行年月日 | 西暦1995年3月17日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード | | 北緯<br>°′″ | 東経<br>°′″ | 調査期間 | 調査面積m² | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| 大歳神社（おおとしじんじゃ） | 長野県茅野市（ながのけんちのし）<br>ちの | 20214 | 308 | 39度<br>59分<br>34秒 | 138度<br>9分<br>11秒 | 19940407～<br>19940818 | 1,100m² | 緊急地方道(A)3・4・2茅野市大年線および防火貯水槽設置工事に伴う |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 大歳神社 | | 縄文<br>弥生終末～古墳<br>中世<br>近世 | 土坑1基<br>竪穴住居1<br>遺物集中<br>土坑1基 | 早期末土器<br>甕、高杯、壺<br>かわらけ、内耳土器<br>すり鉢 | 縄文時代早期の集落址<br>弥生時代、古墳時代の遺物集中 |

# 大歳神社遺跡

―平成６年度県緊急地方道(A)３・４・２茅野市大年線・
防火貯水槽設置工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

平成７年３月14日　印 刷
平成７年３月17日　発 行

編　集　長野県茅野市塚原２丁目６番地１号
発　行　茅野市教育委員会
印　刷　ほおずき書籍株式会社
長野県長野市柳原2133-5